

VOL.58 トップインタビュー 新たな時代に向け、進化する東洋学園大学 第6代理事長 江澤雄一

1926年開校の東洋女子歯科医学専門学校にルーツを求めることができる学校法人東洋学園(東京都文京区)の歴史は、すでに90年を数えようとしている。1950年には東洋女子短期大学を開学するなど現在の東洋学園大学の礎を築き、早いもので女子高等教育に傾注して60年、4年制の男女共学教育に限れば今年で20年目を迎えた。節目の年を迎えた同大は来春4月、従来の「人文学部」「現代経営学部」の2学部構成から「グローバル・コミュニケーション学部」「人間科学部」「現代経営学部」の3学部構成へと再編予定だ。本郷キャンパスに江澤雄一理事長を訪ね、新しい時代を見据えた大学像や新学部開設の狙いについて語っていただいた。

自ら考え、切り拓く力を

リベラルアーツの中で醸成

「貴学は長年にわたり、リベラルアーツを求めていることがよくわかる学校法人東洋学園に力を入れ、自由な学びのための知恵を養い、力を身につけて欲しい」といってほしい。現代社会の急激な変化は、グローバル化が進む中で、リベラルアーツ教育の重要性がますます高まっている。また近年は、グローバル化が進む中で、リベラルアーツ教育の重要性がますます高まっている。また近年は、グローバル化が進む中で、リベラルアーツ教育の重要性がますます高まっている。



江澤雄一(えざわゆういち) 東京大学法学部卒。ハーバード大学行政学修士。大蔵省(現・財務省)国際金融局長などを経て、現在、UBS銀行グループ特別顧問も兼任。2003年4月より現職。

Table with 2 columns: Year and Event. Title: 学校法人 東洋学園 歩み HISTORY 過去から、そして未来へ。 Includes dates from 1917 to 2013 and corresponding milestones.

充実の英語教育プログラム 東洋学園大学の英語教育の到達目標は「使える英語能力を身につけること」。学生一人ひとりのレベルに合わせた習熟度別のクラスで、目標達成に必要な指導を日本人教員とネイティブスピーカーが連携しながら行っている。

「国際人を育てる大学」で、本学の規模は決して大きくありません。しかしこのことをアドバンテージと捉えれば、「一面見の海外」に目を向ける必要がでてくる。現在では学生の海外留学も積極的に推進しています。また最近では、欧米はもちろん、中国の大学とも提携し、学内で中国語のスピーチコンテストを開催しています。



自身の海外勤務での経験からも「若者にはもっと海外に出て活躍してもらいたい」と、江澤理事長

「多極化世界で活躍する人材を育成 グローバル・コミュニケーション学部を新設」 平成25年度に新学部が誕生しました。そうした状況を生かすべく、本学として先んじて「国際人を育てる大学」を掲げ、グローバル・コミュニケーション学部を新設しました。

「多極化世界で活躍する人材を育成」 従来の国際教育は英米文化圏あるいは先進地域との交流が中心でしたが、近年は多極化の動きが顕著です。グローバル・コミュニケーション学部は、多極化された世界の中で、日本の考え方をどう世界に発信するかという非常に重要な課題に取り組んでいます。

「世界で活躍される卒業生が多いのも特色の一つです。例えば、日本とケニアの架け橋になりたいと、日本ケニア交友会という組織を日本ケニアで発起した紅茶を日本ケニアの学校に寄付する活動をしています。」

「保護者との交流も積極的」 1年次から3年次までの学生の保護者を対象に毎年「家族会」を実施しています。これは、保護者の方に本学の教育理念や教育活動の実態を知っていただくこと、お子さんの指導に当たる教員と直接話をすることで、学業と就職活動のバランスをどう取るかという点について、大きな問題となることがあります。

「意欲と気概ある高校生に期待 可能性の開拓に挑戦しよう」 現在の大学教育の課題は、就職活動の3年次から開き始めるのは時期尚早だということ、秋入学への移行の流動化や改革に直結する話です。秋入学への移行の流動化や改革に直結する話です。秋入学への移行の流動化や改革に直結する話です。

「2011年5月、東洋学園大学の教員11人による共著『国際政治経済を学ぶ〜多極化と新しい国際秩序』が上梓された。これは、人文学部と現代経営学部の教員が参加する学部横断的な研究プロジェクトとして進められてきたものである。」



「高校生のメッセージをお願いします。」 高校生の先生方に貴学のピアールをお願いいたします。少子化を所望する時代には、個人が貴重な存在となっており、その個性を伸ばすことが必要です。